

放課後児童クラブの目指すべき方向性の考え方

- 放課後児童クラブでの遊びや生活を通して…
 - ・ 多様な学びや経験により、子どもの豊かな人間性や社会性を育む。
 - ・ 自ら学び考えることにより、子どもの自主性や自律性を育む。

【背景】

- (1) 多様な社会的経験の場としての放課後児童クラブ
学校よりも長い時間を過ごす放課後児童クラブは、異なる年齢や発達の状況にある仲間と共に、多様な社会的経験が可能となる貴重な場
- (2) 子どもの社会生活の現状
生活時間の変化、生きた体験、自然体験の機会の不足 など

放課後児童クラブの運営に係る課題

■ 目指すべき方向性における視点

- ・ 子ども一人ひとりの経験の機会をどのように充実させるのか。
- ・ 放課後児童支援員を通してどのような育成支援を行うのか。
- ・ それぞれの子どもたちが、安心して放課後を過ごすことができる場、学校とは異なる人間関係を築くことができる場として、放課後児童クラブが機能しているかどうか。

■ 公設公営での放課後児童クラブにおける課題

- ・ 待機児童ゼロの量的拡充は一定程度の目処はたったものの、長期休業期間等において、子ども一人ひとりの経験の機会を充実させるようなプログラムの提供が充分ではない状況にある。
(子どもの自主性を踏まえた提供プログラムの構築)
- ・ 児童に対する育成支援のため、放課後児童支援員の専門性を高める研修や指導体制の充実を図って行く必要がある。

■ 対応策の考え方 (案)

質の向上に対するきめ細かい対応を行うため、
民間ノウハウの活用を検討

1 活動内容に関する課題

基本的な1日の流れ（資料4-2参照）を各放課後児童クラブで定めており、開会時間が長くなる長期休業期間には、児童クラブのおかれる環境によって、学校のプールや近くの公園に遊びに行くなど、できる限り室内だけの活動に留まらないようにしているが、サービス向上を図る上では、児童クラブでの活動内容をさらに充実させる必要がある。

【民間委託により期待される改善点】

- ◎現在実施している基本的な活動に加え、さらに民間事業者のノウハウをもった特別プログラムの実施
- ◎巡回者によるほかの児童クラブとの比較の視点を持った、活動内容（遊びや行事等）に係る助言や指導

2 支援員に関する課題

放課後児童クラブにおいては、今まで待機児童解消を最優先に新規開設等の対応を進めてきており、安定的な放課後児童クラブ運営の観点から、支援員の追加任用を行ってきたが、限られた人材で運用する中、放課後児童クラブのサービス向上を図るためには、直接児童と関わる支援員のさらなるスキルアップが欠かせないものと考えられる。

■現状

- (1) 支援員の研修体制
 - 担当課主催（年1～2回）
 - 【過去の実施例】
 - ・発達障害の理解と児童への対応
 - ・放課後児童クラブにおける遊び
 - ・放課後児童クラブの役割と活動充実
 - ・放課後児童クラブと作業療法の連携 など
 - 北海道、子ども総合相談センター主催(年2～3回)
 - ・クラブ運営に活用できる内容の研修を希望者が受講
- (2) 放課後児童クラブの巡回体制 ※H30.11現在75か所
 - ・物品配付、設備の不具合等の対応が多い
 - ・児童クラブのミーティング参加
 - ・支援員への指導 など
 - 70数か所に対し、日々の運営や活動の確認・指導等の視点での巡回対応が難しい状況。
- (3) 支援員の処遇
 - ・嘱託職員の身分上、週29時間の制限有
 - ・報酬額が固定
 - ・更新はあるが、年度ごとの1年間の任用



■課題

- (1) 支援員の研修体制

支援員の資質向上の視点では、特別な支援を要する児童の理解や、放課後児童クラブで行う遊びや行事、サービス提供者としての接遇等、様々な内容が考えられるが、実施回数と実施内容の充実が必要である。
- (2) 放課後児童クラブの巡回体制

サービスの均質化や向上を図るためには、巡回体制を強化した中で、現場の声を聞きながら、現状の運営や活動の改善を進める必要がある。
- (3) 支援員の処遇

放課後児童クラブを安定的に運営し、質の高いサービスを提供する観点から、幅広く良質な人材を確保する上で、収入等の処遇の向上や雇用期間の安定が必要である。



◎公設公営の現状の運営体制では、これらの課題への一層の対応が難しい状況にあり、民間委託となった際には、民間事業者のノウハウの活用などによって改善が期待できる。